

第一支部

(1) 報告事項

ア. 第1回支部勉強会

(ア) 日時：2022年4月22日（金） 19：00～20：30

(イ) Zoomによる開催

(ウ) 参加人数：50人

(エ) 内容：

a. 令和3年度会計報告

第一支部理事 双木 邦博

b. メーカー講演

「AI技術を用いたAplio iシリーズPrism editionのご紹介」

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 阿部 史称

「造影CTの基礎 ～安心安全な医療を提供するために～」

株式会社根本杏林堂 宇越 弘樹

c. 一般演題

「当院での一般撮影における再撮影率の傾向と対策」

JCHO 埼玉メディカルセンター 放射線技術部 浅賀やよい

「当院の新型コロナウイルス感染症対策下における胸部CT撮影の傾向」

JCHO 埼玉メディカルセンター 放射線技術部 川久保優妃

「当院の再生医療（膝）について」

埼玉協同病院 佐藤 直哉

第三支部



第三支部だより

第三支部理事 市川 隆史

梅雨の晴れ間に、夏の足音が間近に感じられるこのごろ、会員皆さまにおかれましてはご壮健のこととお慶び申し上げます。

新年度となり、第三支部の役員の改編が行われました。活動報告と共に役員のご紹介をさせていただきます。

【報告事項】

1. 第1回 第三支部役員会

(ア) 開催日時：2022年6月3日（金） 19時～

(イ) 開催場所：Webにて

(ウ) 内 容：今年度の第三支部の年間予定・役員の役割り、担当決定

《2022年度役員紹介》

支部理事・地区代表	市川 隆史	ユニクス川越予防医療センター・クリニック
副代表	高橋 将史	埼玉医科大学病院
会計	瀬川 麻衣子	埼玉医科大学病院
監査	今井 昇	旭丘病院
役員	堰 裕一	埼玉医科大学国際医療センター
	浅見 徹	埼玉医科大学国際医療センター
	栗原 良樹	埼玉医科大学総合医療センター
	細井 慎介	埼玉医科大学総合医療センター

【今後の予定】

現在決定している予定はありません。

開催が決定次第、ホームページなどでお知らせ致します。

第三支部の活動の詳細は、ホームページ (<http://saitama3shibu.jimdo.com/>) をご覧ください。

第六支部

～Lock on～

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

1. 巻頭言
2. 第1回定期講習会報告
3. 新役員就任あいさつ

巻頭言

ランニングのすすめ

さいたま赤十字病院 大川斗喜也

最近、街中で走っている人をよく見かけないだろうか。2021年に開催された東京オリンピックや、今般のコロナ禍の影響でランニングブームが起きている。私は一般撮影や救急外来を担当することが多いが、当院は患者数も多く、一日の撮影件数をこなすためにはかなりの体力が必要である。以前の私は、業務後の疲労感がひどく、帰宅後は何もする気が起きずに心身共に疲弊した日々が続いていた。体力作りとストレス解消になればと、実は私もブームに便乗してランニングを始めた一人である。

私が思うランニングの魅力はまず、自身の成長が距離や時間といった数値として明確に結果に表れる点である。最近では技術の進歩により、スマートフォンやスマートウォッチのアプリケーションと連動して記録やコース、心拍数までも測定することができる。

次に、全て一人でできるため自由度が高いという点である。目標の設定や練習内容を自由に決められるため、自分のペースで無理なく継続することができ、練習を重ねて目標を達成した時は、とてもすがすがしく達成感を感じることができる。

ランニングの効果は主に二つある。一つ目は、体力の向上などの身体的な面である。心肺機能向上によって体力がつくのはもちろん、新陳代謝の向上にもつながる。二つ目は、ストレス軽減などの精神的な面である。走っている時は無心になれるため、頭の中が整理される。また、脳内でさまざまな化学物質が分泌されることによって、ストレスが軽減すると言われている。そして適度な運動は、日常生活にも活力を与えてくれる。ここには書ききれないが、この他にもさまざまな効果が期待できる。

私はランニングを始めて2年になるが、ランニングを定期的に継続したことにより、体力がとても向上したという実感を持つことができている。以前に比べ、体が軽く感じ、日々の業務はもちろんのこと、業務後においても活動的になることができた。また、ストレスを感じたり気分が落ち込むことがあっても、ランニングをすることによって気分転換することができている。さらには、その日の体調によっても記録が異なるため、今まで以上に自身の体に声を傾ける機会が増えた。それにより日々の食事や睡眠に対する意識にも変化が生じた。ランニングをすることにより、公私ともにとっても充実した生活を送れるようになった。

ぜひ皆さんもこのブームに乗ってランニングを始めてみてはいかがでしょうか。

2022年度 第1回 Web 定期講習会報告

彩の国東大宮メディカルセンター 小保方 駿

日 時：2022年4月28日（木）

開催方法：Web開催

参加人数：51人

●施設演題

①明日から使える撮影技術と修正方法 肩関節・膝関節編

丸山記念総合病院 関谷 直樹

膝関節編では立位撮影で荷重を掛け変形性膝関節症の評価を行うローゼンバーグ撮影について講演された。荷重撮影が行われる背景として、近年注目されるロコモティブシンドローム（運動器症候群）がある。これは、加齢に伴う運動器の障害により日常生活に制限をきたし、変形性関節症や骨粗しょう症などを引き起こして介護・介助が必要な状態になることや、そうなるリスクが高くなる状態をいう。

ローゼンバーグ撮影では荷重を掛けることで、変形性膝関節症の進行度評価の指標である関節裂隙の評価ができる。正しく評価するためには脛骨関節面を平行に撮影する必要があり、①膝関節を正面に向ける②関節腔をしっかりと描出するなどの正しいポジショニングが重要となる。本講演では、実際の画像を用いて下腿の角度やX線管球角度の調整方法について、新人の診療放射線技師でも理解できるように説明された。

また、肩関節編では肩関節側面撮影（Y-view）について紹介された。救急撮影にて立位不可の撮影では、受傷側をフィルムから離すように体を回旋させ、そこに三角スポンジなどの補助具を入れることで体位を安定させることが重要と述べた。撮影する前に患者全体の姿勢を見直し、目的部位だけを回旋するのではなく体全体を回旋させることで安定した体位が保持でき、再撮影の低減につながるのとのことであった。

②当院における再撮影率低減に向けた取り組み

彩の国東大宮東大宮メディカルセンター 横山 楓

自施設で行われている再撮影検討会において、実際に扱われた症例と対策について講演された。マスクやカイロの外し忘れなど確認不足による事例、体内金属の見切れなど過去画像を見れば防げる事例、撮影条件・装置の設定による事例など、さまざまなシーンでかつ誰にでも起こり得るケースを説明された。実際に画像を提示して聴講者に投げかけるように話されていたため、気を付けなければならない箇所を改めて実感した講演であった。

●技師講演

③一般撮影 画像処理の基礎 FUJIFILMユーザーの視点から

上尾中央総合病院 樋口 誠一

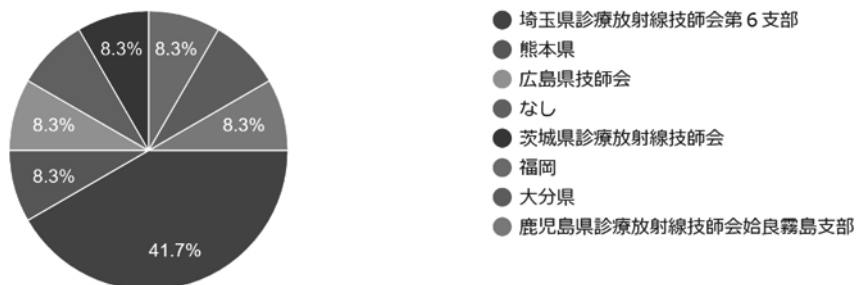
現在、広く使用されているX線デジタル撮影の画像処理について講演された。デジタル撮影では撮影後に濃度調整や辺縁強調の処理を行うことが可能である。これらの処理を行う過程は、①主観的な画質評価を行い、②処理方法を理解した上での画質調整となる。画質を評価する項目として、コントラスト・鮮鋭度・粒状性があり、初めにこれらが適正なものであるか評価を行う。調整が必要なものに関しては、階調処理（コントラスト）、周波数強調処理（鮮鋭度）、ダイナミックレンジ圧縮処理（可検域の拡大）などの処理を加えることで臨床に即した画像が提供できる。本講演では、おのこのプロセスと臨床画像上での描出の違いを詳しく説明され、診断に有用な画像を提供するための『目的に応じた画像処理』が必要であると述べられた。

埼玉県のみならず他県のご施設からも参加していただき、支部の勉強会としては参加人数の多いにぎわいのある講習会となった。

●アンケート結果

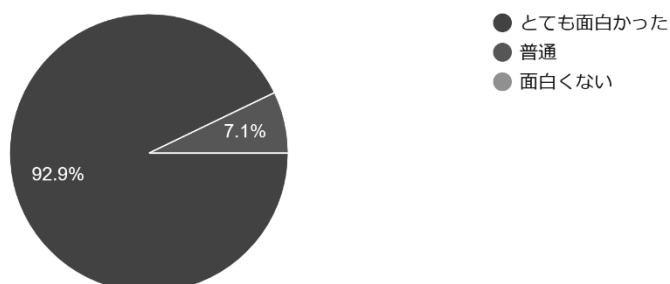
所属支部について

12件の回答



本日の内容はいかがでしたか？該当する項目を選択してください。

14件の回答



本日の内容について、理解することができましたか？該当する項目を選択してください。

14件の回答



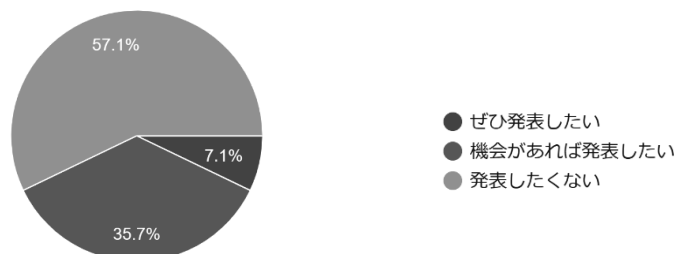
Zoomを利用した講習会に次回も参加したいと思いますか？

14件の回答



このような講習会で、演者として発表したいという気持ちはありますか？該当する項目を選択してください。

14件の回答



今後、聞いてみたい企画や内容など、要望がありましたら、ご入力ください。

- ・コロナ禍 撮影室での感染対策
- ・他県から参加させていただきありがとうございました。当地域の研修会の参考になりました。発表は他県ですので、控えさせていただきました。今後とも支部のご活躍をお祈りしています！
- ・各モダリティの基礎講演/線量管理方法など

新役員就任あいさつ

・会計担当 埼玉県立小児医療センター 畠山 祥一

今年度から第六支部の会計を担当させていただきます埼玉県立小児医療センターの畠山と申します。初めての支部役員なので至らぬところも多いと思いますが、支部に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。